

施設	検討のタイミング	検討材料	検討構成員	特記事項
London Zoo	治療後もさらに悪化した場合。	治療経過（食欲、BCSルーメンスコア）、QOL評価（Evidence based animal care teamがサポート）	飼育員、獣医、行動調査員、マネージャー、キュレーター。ソーシャルメディアチームはオブザーバー参加。	野生下寿命よりも高齢になったら定期健康診断を開始し、悪化の場合には安楽死を検討。
Edinburgh Zoo	福祉評価や運動性評価で基準を超えた場合。感染症や人に危害がある場合。	福祉スコア 運動性スコア 治療経過（BCS、食欲、運動性、加齢性疾患など）	飼育員、獣医師（Welfare officer）	高齢になると年1回の定期福祉評価は年2回に増加し、運動性が悪化し場合には運動性評価を月1回実施。
Yorkshire Wildlife Park	倫理的問題が起こる可能性がある場合。継続して懸念される個体は月1回検討。	福祉スコア 治療経過 個体情報（相性、性格） 健康状態 日々のモニタリング	飼育員、獣医、行政職員、外部の獣医（セカンドオピニオン） その他利害関係のない人（例：地元の農家さん）	野生下寿命よりも高齢になったら検討のための福祉評価を開始し検討。 例：高齢のライオンは毎日福祉評価を実施している。

※公開シンポジウム「動物の安楽死を考えるII」にて使用